

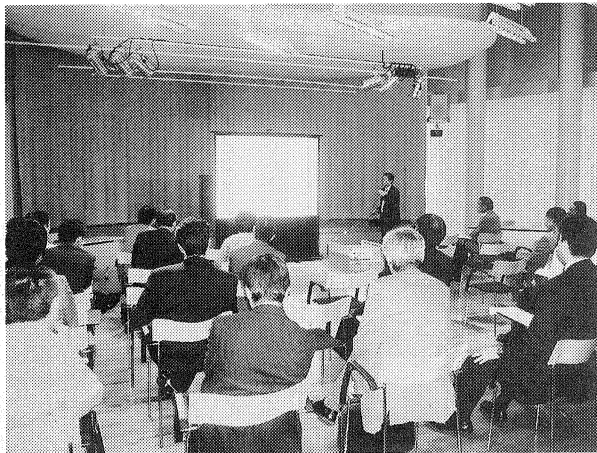
佐伯氏(新大)が塩害テーマに講演

(新大) 准教授

コンクリート診断士のセミナーで

新潟県コンクリート診断士会(丸山久一会長)はこのほど、09年度第1回技術セミナーを、新潟市立中央図書館で開催。新潟大学工学部建設学科の佐伯竜彦准教授が、「塩害環境を測る」をテーマとして講演した。

佐伯氏はまず、研究の



佐伯准教授の講演に聴き入る参加者

目的について、塩害発生環境を定量的に把握し、環境条件(地域・地形・部材位置など)による劣化外力の違いを反映した耐久設計、維持管理に役立つ知見を得るため、と説明。

新潟県沿岸の飛来塩分量の測定結果報告では、15地点で2年間に渡り

調査した結果、飛来量は▽冬期に多く、夏期に少ない▽年変化は小さい▽周辺地形などの個別条件の影響が大きい―と解説した。

さらに、モルタル供試体の暴露試験結果から、塩分浸透量は累積飛来塩分量の平方根に比例する、と説いた。

これからの展開としては、薄板状小型モルタル供試体を構造物各部に設置し、短期間で浸透する塩化物イオン量を測定。部位・部材ごとのミクロな塩害環境を評価する手法を構築していく、と話した。

また、今年度の冬期からデータ収集を開始する

と述べ、部位ごとに頻度や手法を変えた効率的な維持管理方法の確立、劣化外力のデータベース化による設計へのフィードバックを図りたい、と抱負を語った。

一方、09年度に改定した「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強」のポイントも紹介。

①初心者から中堅技術者が容易に対応できる内容になった②技術的進展、基準類の改定内容を盛り込んだ③評価(技術的内容に基づくもの)と判定(オーナーが実施するもの)を別の章に分離、補修と補強を同一章に合体した④発生したひび割れに対する評価方法

を3つに分類⑤ひび割れの補修・補強の最近の事例を充実させた―と説明した。